

Human Library



1
13:10
~13:40

2
13:55
-14:25

3
14:40
-15:10

4
15:25
-15:55

5
16:10
-16:40

1	レイナ【自分で運命を切り開く方法】	日本語	日本語	日本語	日本語	×
2	植木春実【大震災で人生が変わった！三者の視点から見る3・11とその教訓】	日本語	日本語	日本語	日本語	×
3	伊東碧海【私の普通】	日本語	日本語	日本語	×	日本語
4	ともひろ【「新宿」に飛び出して】	日本語	日本語	日本語	×	日本語
5	ゆき【東日本大震災後「あなたは何者にでもなれる」と言ってくれた移住者との出会いから】	日本語	日本語	×	日本語	日本語
6	陳天璽 CHEN Tien-shi【無国籍の人って、どう生きてるの？ How do stateless people live?】	English	日本語	×	日本語	日本語
7	秋葉丈志 Akiba, Takeshi【周縁と「内側」の狭間で An insider or an outsider?】	日本語	×	English	日本語	日本語
8	ルー Lu【中国のクィアの声を、世界中に届ける Bringing China's queer voices to the world】	日本語	×	日本語	English	日本語
9	ミラーナ Milana【私はなにじん？ Who am I?】	×	日本語	日本語	日本語	English
10	Suzan【"Resilience in Adversity: A Journey of Hope and Humanitarianism"】	×	English	English	English	English

自分で運命を 切り開く方法

レイナ

2000年早稲田大学商学部卒業。
www.reina-make-up.com
instagram @reina.official



大震災で人生が変わった！ 三者の視点から見る3・11と その教訓

植木春実

早稲田大学大学院商学研究科修了
3・11を期に母とNPO法人元気の素カンパニー以和貴を
設立。13年間心の復興に尽力する。
会社員を経験後、現在はフリーで日本人の心の復興を促
す活動をしている。
(NPO) ホームページ：<https://genkinomotoiwaki.org>
(個人) 日本を体感する研修の案内ページ：
https://peraichi.com/landing_pages/view/iseokagesama



#自分信じる
#努力
#ご縁
#役目
#勇気と覚悟

推薦で早稲田大学商学部に入學するも、中学の時からの夢であったメイクアップアーティストになるべく、夜学でshuueimuraのメイクスクールにダブルスクールで通う。その後一般的な就職活動をするが、この道ではないと確信、すべての退路を断ち、メイクの道で生きていくと決める。縁あって卒業後化粧品会社に勤務、新宿伊勢丹店で副店長を務めるなど店頭で経験を積み3年で独立。その後フリーランスのメイクアップアーティストとして仕事をする中でチャンスを掴み、現在にいたるまでのストーリー。

#東日本大震災
#ボランタリー
#心の復興
#日本
#歴史・文化
#生涯学習

東日本大震災で被災、自宅は半壊した。約1ヶ月の断水生活を経験後、東京に自主避難。被災地を転々としながら浪人生活を送る。被災後、生涯学習による心の復興を目指し、母とNPOを設立。13年間で延べ五千人以上に情報を届ける。大学時は専攻の商業の他、異文化交流など多分野を学び、日本人が自国を知らなさすぎることに衝撃を受ける。現在は被災地だけでなく、日本人の心の復興を目指し公私で活動中。

私の普通

伊東 碧海

現早稲田大学文学部4年生。
先天性感音性難聴で、高校までは
ずっとろう学校に通っていまし
た。



「新宿」に飛び出して

ともひろ

早稲田大学社会科学部4年
SDC・GSセンター学生スタッフ
コミュニティセンターaktaスタッフ



#大学生
#デフファミリ
#聴覚障害

生まれつき耳が聞こえない。補聴器がないと日常生活はほぼ無音で、つけたとしても音が聞こえるだけで言葉としては入ってこない。ついでに言うと両親も兄弟も全員聞こえないので、小さいときから家の中でも外でもほぼ手話と筆談。

上記を読んで、皆さんはどんなイメージを抱きましたか？または「全く想像できない」と思う方もいるのではないのでしょうか。これは私の自己紹介にあたる文なのですが、だからといってこれまで一体どんな波瀾万丈な半生を送ってきたのか…という話ができるわけでもなく、実はこれといって特に何もない普通の20数年間でした。

と言えるのは、私の「普通」と皆さんの「普通」がどれだけ違うのか、生まれつきの聴覚障害者である私にとっては知る手段がないからでもあります。今回は、そんな私の「普通」をお話することで皆さんの「普通」とどう違っていてどう同じなのか…ということをお互いに知り合える機会になればと思います。

#新宿二丁目
#セクシュアルヘルス
#ボランティア

自分のセクシュアリティに悩んだ中高時代。この気持ちを誰に伝えたらいいんだろう？と考え続けました。大学に進学し、実家と「新宿」を往復する生活が始まりました。新宿二丁目でコンドームを配るボランティアに従事し、様々なバックグラウンドをもつ人と交流するなかで、自分が安心して過ごせる場所を見つけました。

東日本大震災後、「あなたは
何者にでもなれる」と言って
くれた移住者との出会いから

ゆき

早稲田大学社会科学部4年
WAVOC学生スタッフ



東日本大震災
宮城県仙沼市
地元が嫌い
移住者の第一印象は「外国人」
ウクライナ避難民支援ボランティア

「移住者たちは楽しそうに私の地元の魅力を話して
る。私のほうが長く住んでいるのに。私は全然この
まちの良さに気づいていないんだ」

地元が嫌いで、早く都会に行きたいと思っていた
幼少期。
そんな時に、東日本大震災を経験して、移住者と
呼ばれる人たちに会った。
その出会いが、私の転機だった。

移住者との出会いを通じて、地元に対する思いの
変化、高校での活動、ウクライナ避難民ボランティ
アについてなど、今の私の思いを赤裸々にお話しし
ます。

周縁と「内側」の狭間で
An insider or an outsider?

秋葉丈志
AKIBA, Takeshi

早稲田大学学生ダイバーシティセンター長
Director, Student Diversity Center, Waseda University



アイデンティティ
帰国子女の周縁
ダイバーシティ
居場所・居心地
identity #returnee #outsider
#diversity #whereabouts
#fitting in

アメリカに生まれ育ち、「帰国子女」としての模索を経
て、ダイバーシティやマイノリティをキーワードにキャ
リアを積んできました。いつも周縁と内側の狭間であち
こちに居場所があるような、逆にどこにもないような、
行き来する感覚で過ごしてきました。そんなパーソナル
な経験を話しながら、社会の居心地について考えられ
たらと思います。

Growing up in suburban Maryland (U.S.) as the
only Japanese family around, and then
returning to Japan as the first ever "returnee"
to a town in Saitama, I have always negotiated
my identities at the boundaries between being
an insider and outsider. Still feeling the same
way, I hope to explore ways in which we can
create a more inclusive society where everyone
can feel safe and comfortable.

無国籍の人って、 どう生きてるの？ How do stateless people live?

陳天璽 CHEN Tienshi Lara (ララ)

早稲田大学国際学院教授、NPO法人無国籍ネットワーク発起人。無国籍ネットワークユース顧問。

横浜中華街生まれ。30年程無国籍者として生活。国籍、アイデンティティに注目し、華僑華人、移民、難民、無国籍者についての研究や活動に従事。筑波大学大学院国際政治経済学博士。ハーバード大学フェアバンクセンター、日本学術振興会（東京大学）研究員、国立民族学博物館准教授を経て現職。著書に『無国籍』、『無国籍と複数国籍』、Stateless、共著に『パスポート学』、絵本『にじいろのペンダント』など。

Lara, CHEN Tien-shi, who was born and raised in Japan, lived here as a stateless person for over 30 years. After completing her Ph.D. in International Political Economy, she started researching the lives of Stateless people from an Anthropological approach in order to deepen her understanding of this issue and to make apparent the disconnect between the laws regarding statelessness and reality of people's lived experience. She wrote the book "Mukokuseki (無国籍 Stateless)" that was published in Japan, which is based on her own experience and her research. She now teaches at the School of International Liberal Studies, Waseda University, also founder of NPO Stateless Network.



中国のクィアの声を、 世界中に届ける Bringing China's queer voices to the world

ルー Lu

文学部4年

中国四川省出身

GSセンター学生スタッフ

4th-year student, School of Humanities and Social Sciences

Born in Sichuan, China

Student staff member, Gender and Sexuality Center



どうして無国籍になるの？ どう暮らしているの？
国籍とアイデンティティでイコールなの？
そんな疑問を持っていますか？私が無国籍者として
生きてきた体験、
そして無国籍の人を研究したり、NPO団体で無国籍者
をサポートしてきた経験を通して、
その実態についてお話しします。

What kind of people are stateless? How do
stateless people live? Is nationality equal to
identity?
Don't you have such questions?
I will talk about the situation through my
experience of living as a stateless person and
through my experience of researching stateless
people and supporting stateless people in non-
profit organizations.

中国出身で、ゲイでノンバイナリー自認のわたしが4年前に来
日しました。日本のLGBTQ+コミュニティに参加して慣れ
てきたが、母国のLGBTQ+コミュニティに何か起こったと
きにどうしてもそれから目を逸らすことができません。日本
で生活しているわたしはどのように薄まっていく母国のコミ
ュニティーとのつながりを取り戻すのか、色々考えてきまし
た。その考えを、「本」になることで読者の皆さんに共有し
たいと思っています。

I am a self-identified non-binary gay, who came to
Japan from China four years ago. I have grown
accustomed to being part of the LGBTQ+ community
in Japan, but when something happens in the
LGBTQ+ community back home, I can't just look the
other way. Living in Japan, I have been thinking a lot
about how I can restore the fading connection with
my community back in China. I want to share these
thoughts as a "book" in this program.

#国籍 #アイデンティティ
#移民 #マイノリティ
#無国籍
#statelessness #nationality
#citizenship
#identity #minority #migrant

#LGBTQ+ #アイデンティティ
#留学生 #在日外国人
#identity #international student
#foreign residents of Japan

私はなにぶん？ Who am I?



ミラーナ Milana

私はロシアで生まれ、幼少期をロシアで過ごしました。
その後、日本の中学校と高校に通いました。
今は、商学部の1年生です。

Born and spent childhood in Russia.
Went to junior high and high school in Japan.
Now a freshman in school of commerce.



"Resilience in Adversity : A Journey of Hope and Humanitarianism"



Suzan

PhD student in International Relations at Waseda University, deeply involved in humanitarian work, with a focus on refugee support in Japan. Her background includes a BA in English Translation from the University of Aleppo and a Master's in International Relations from Waseda. Suzan's experience spans over three years with INGOs and nine years in translation, currently at the British Council. She is known for her resilience, leadership, and commitment to making a positive impact in the lives of those affected by conflict.



#life in Japan as foreigner
#bilingual
#nationality #appearance
#外国人として日本での生活
#国籍 #見た目で判断
#バイリンガル

私は自分の国籍について話します。私は人生の半分以上を日本で過ごし、日本語を流ちょうに話します。しかし、日本では外国人として扱われます。私の見た目で判断して英語で話しかけられたりします。私は一体何人なんだろう。

I will talk about my nationality. I have spent half of my life in Japan and I speak Japanese fluently but still I am a foreigner here. Because of my appearance, everybody talks to me in English. So who I am?

#Adaptation
#Empathy #Hope
#Humanitarianism
#Resilience

Living through the Syrian conflict, Suzan experienced firsthand the fragility and resilience of the human spirit. This tumultuous period shaped her life, instilling a profound sense of empathy and a drive to help others in similar situations. Transitioning into humanitarian work, she embraced the challenges, finding immense reward in making a positive impact. Her journey, marked by continuous learning and adaptation, highlights the importance of patience, understanding, and unwavering commitment. Suzan's story is a testament to transforming personal adversity into a force for collective good, embodying the spirit of Anzai sensei's words:
"Until the very end, never lose hope. It's when you give up that the match is over."